



ニュージーランドへ行ってきました



～平成29年度中学生海外派遣事業報告～



町内の中学校3年生を対象とした中学生海外派遣事業が、8月15日(火)から25日(金)の11日間、ニュージーランド(以下、NZ)で行われました。参加したのは選考された12人の生徒(大方中学校7人、佐賀中学校5人)と、引率者4人です。15日(火)早朝、佐賀庁舎で保護者や先生、関係者に見送られた生徒たちは、翌朝8時NZオークランド空港に到着し、バスでロトルアに向かい、先住民マオリ族の文化を学びました。



翌朝はロトルア周辺の観光を済ませた後、ハミルトン市フェアフィールド中学校に向かいました。中学校ではホストファミリーが生徒たちを待っていており、英語でお互い自己紹介をした後、それぞれのホームステイ先に向かいました。生徒たちはそれから6泊し、ホームステイ先から学校に通います。翌日学校では、先住民マオリ族の儀式にのっとった歓迎式で迎えられた後、生徒たちは授業に入っていました。

フェアフィールド中学校は生徒数600人あまりですが、多様な国籍の子どもたちが通う学校です。また数十カ国から留学生を受け入れ、年間20校近い日本の学校の短期留学(ホームステイ研修)を受け入れていることから、いろんな面で国際性豊かな学校であることが感じられます。

この中学校に来ていつも感心するのは、生徒たちの規律のよさです。休み時間も授業中も自由に、見た目には雑然とした集団に見えますが、一旦団体行動をしなければならなくなったときには、すぐに私語をやめ整列し、順番行動が取れるその姿には大変感心します。また校長先生が朝の巡回で教室に入ってきたとたん、全員が起立し、「敬称(サー)」を付けて校長先生にあいさつすることにも驚きを感じました。

そんな子どもたちも、午後3時には全員学校を出ます。その後は地域のスポーツクラブで活動したり、家族と過ごします。子どもたちと過ごすために、早朝出勤して、3時には会社を出て帰宅する人も多いと聞きました。

黒潮町の中学生にとって英語漬けの数日間でしたが、コミュニケーションに困ることなく、ホストファミリーの一員として受け入れをしていただいたようです。今回のこの経験を今後の日々の学校生活にいかし、また今回の出会いを大切に、国を超えた友情を育んでもらいたいと思います。



教育次長 畦地 和也



フェアフィールド中学校クラスルームにて



校長先生の話真剣に聞く子どもたち



ホームステイ先でのお別れパーティー